

第19回真鶴町地域公共交通会議概要

日時：令和元年10月9日（水）9：30～10：35

場所：真鶴町役場庁舎横 会議室

出席者：委員15名（欠席7名）

傍聴者：0名

1 開会

事務局：長沼)

定刻となりましたので、皆さまこんにちは、まちづくり課の長沼と申します。本日はお忙しい中、お集まりいただき、誠にありがとうございます。会議を始める前に、お手元の資料の確認を行います。次第、委員名簿、真鶴町地域公共交通会議設置規約、資料1、資料2、資料3、資料4、資料5、資料6、資料7、となっています。

人事異動等により新たに委員となりました方につきましては、委員名簿に下線が引かれております。神奈川運輸支局の三橋(みつはし)様、本日は所用のため欠席となっております。小田原土木センターの加倉井(かくらい)様、小田原警察署の佐藤様、伊豆箱根バスの岩崎様、真鶴町議会の森様、本日は所用のため欠席となっております。まなづる小学校バス通学児童保護者会の皆木様、本日は代理として長谷川様でございます。事務局においては、まちづくり課長の長沼、羽立が新しく事務局員となりました。よろしく願いいたします。本日は委員22名のうち代理出席も含め、過半数以上が出席をされていることから、会議設置規約第6条により、会議が成立していることをご報告させていただきます。それでは、会議を始めるにあたり、役員を選出を行います。本会議の会長につきましては、真鶴町地域公共交通会議設置規約第5条第2項により会長は委員の互選により選任することになっております。委員の皆様におかれましては、いかがでしょうか。

青木委員)

引き続き昨年と同様岡村委員にお願いしたい。

事務局：長沼)

皆様のご承認を頂ければ、岡村様にお願いしたいのですが、皆さまいかがでしょうか。

—異議なしの声—

事務局：長沼)

ありがとうございます。会長は岡村様にお願いいたします。また、真鶴町地域公共交通会議設置規約第5条第4項により、副会長及び監事は、会長が指名することになっております。

岡村会長)

それでは、副会長は真鶴町自治会連合会長であります三木委員にお願いします。監査は真鶴町社会福祉協議会 会長の青木委員と、本日欠席と伺っております企画調整課長の小清水委員にお願いします。

事務局：長沼)

岡村様から指名がありましたので、副会長は自治会長三木委員、監事として社協青木委員と企画調整課の小清水委員ということでご承知願います。それでは、議題に入ります。ここからは岡村会長に進行をお任せします。よろしくお願いします。

2 議題

(1) 平成 30 年度会務報告について、(2) 平成 30 年度事業報告について (3) 平成 30 年度決算報告について ※決算に関わることから合わせて説明

○資料 1、2、3 を用い、事務局より報告。

事務局：尾森)

それでは、資料 1 をご覧ください。『平成 30 年度会務報告』についてです。平成 30 年度は平成 30 年 6 月 20 日に第 15 回、9 月 26 日に第 16 回、11 月 5 日に第 17 回、平成 31 年 2 月 8 日に第 18 回、計 4 回会議を開催し、議題につきましては記載のとおりでございます。

次に『平成 30 年度事業報告について』でございます。資料 2 をご覧ください。上から、コミュニティバスの利用実績と、昨年度との比較、デマンドタクシー実証実験の報告、運転免許証自主返納支援事業の実施状況の報告になります。コミュニティバスの利用者数につきましては、年間で 40,747 人、前年度対比で 3,572 人の増加となっており、平成 28 年から開始したコミュニティバスが町民の皆様の生活に根付いてきているのではないかとというのが増加の要因と思われれます。

次に、『デマンドタクシーの実証実験』になります。平成 31 年 2 月 1 日～3 月 15 日までの 1 月半の実証実験の結果、計 6 回の使用がございました。

3 つ目は、『運転免許証自主返納支援事業の実施状況について』です。こちらは、昨今の高齢者ドライバーの痛ましい事故を背景に、運転免許証の返納意識の向上、また返納に伴う公共交通の利用促進を目的に平成 30 年 11 月より開始し、昨年度は 38 名の返納がありました。

引き続き、『平成 30 年度決算報告について』ご説明いたします。こちらは、監査委員であります。青木委員様よりご報告願います。

青木委員)

それでは、会計監査報告をさせていただきます。令和元年 10 月 8 日に、平成 30 年度真鶴町地域公共交通会議の会計監査を実施した結果、経理、関係書類等は適正に処理されている

ことを報告させていただきます。以上です。

事務局：尾森)

ありがとうございました。順番が前後してしまいましたが、資料3を説明させていただきます。※資料3を用い、事務局より説明。

岡村会長)

はい、それではこの決算に至るまでですが、何かご発言、ご意見等はございますか。資料の2というのが具体の数字ということになりますので、決算も大事なのですが、こちらも見えて頂けると、ということです。

コミュニティバスは若干増加傾向ということで、結果として当初負担見込よりは少なくなったということでしょうか。

事務局：尾森)

はい

岡村会長)

試験運行のデマンドタクシーはこの数字だけ見ると、なかなか当初から難しいのではないかという話でしたが、やってみなければということでやってみたところですが、ちょっと厳しいというか。

事務局：尾森)

デマンドの実績につきましては、議会の方でも説明させていただいたのですが、湯河原町では利用があるようですが、真鶴町では距離が短いこと、乗車場所、周知期間などもあったかもしれないですが、問い合わせなどもあまりありませんでした。実証実験としては少なかったというところでは。

岡村会長)

湯河原町さんと私も少し関係があるのですが、ある程度長い距離を利用しているようで、買い物など具体的な目的があるなど、あと地域からも利用したいという声もあったことで、想定内の利用となった地区もあったと。

こちらは、元々無料だったコミュニティバスの区間で、なんとかその地域を別の手段でということではじまったと理解していますが、なかなか車を用意したところで移動してはいただけません。実績がないからといって必要がないとはいえないというのがこの交通の難しいところで。2日間特定の方にご利用があったのですか。

三木副会長)

デマンドの場合は買い物が主要ですか、それとも出かける目的ですか。

事務局：尾森)

乗降場所が小田百ですので。こちらのデマンドタクシーの資料ですが、港ゾーン、山ゾーンというところで実施したところがございます。

岡村会長)

この数では傾向という分析は難しいと思いますが、よろしいですかね。この後の議事とも関連することもあると思いますので、またご意見をいただければと思います。

(4) 令和元年度真鶴町地域公共交通事業計画(案)について、(5) 令和元年度真鶴町地域公共交通会議予算(案)について ※予算に関わることから合わせて説明

○資料4、5を用い、事務局より説明。

岡村会長)

それでは、議題4『令和元年度真鶴町地域公共交通事業計画(案)について』それから、議題5『令和元年度真鶴町地域公共交通会議予算(案)について』を説明お願いします。

事務局：尾森)

『令和元年度真鶴町地域公共交通事業計画(案)について』ご説明いたします。資料4をご覧ください。今年度の事業計画につきましては、大きく3つございます。

1つ目は『公共交通利用促進事業』でございます。こちらは、昨年度も実施いたしました、運転免許証自主返納支援事業についてです。本事業の目的につきましては、高齢ドライバーの事故を防ぐとともに公共交通の利用促進を図るもので、今年度も実施しており、9月末時点で21名の返納がございます。町民の皆様からもお問い合わせが多く、積極的に取り組むべき事業と考えております。

2つ目は『公共交通の充実』です。昨年度は、バス停の新設、バスダイヤの改正、バス時刻表の作成、デマンドタクシーの実証実験、アンケート調査などを行い、公共交通の利便性及び満足度の向上にむけて事業を実施させていただきました。今年度につきましては、これを基に更なる公共交通の充実に向け、関係各所との連携を図りたいと考えております。

3つ目は『地域公共交通会議の開催』についてです。事業計画の1つ目、2つ目についてご審議いただくために行うものでございます。続きまして、資料5をご覧ください。○資料5を用い、事務局より説明。を説明

岡村会長)

はい、ということになっています。来年度は新たに車を動かすとかではなく、利用促進事業とか、今あるものについてみていくという事業という事ですか？

三木副会長)

真鶴町は高齢者が多くて、買い物に行くには小田百が多い、この場合乗り物を利用するんですが、でも、バスは15時で終わってしまう。そうなったら歩きか、タクシーになる。できればあと1時間か延ばしてもらいたい。時期によっては、夏に歩いて行けてのはちょっと。

岡村会長)

事務局いかがでしょうか。

事務局：長沼)

こういった意見をだしていただいて、この会議で審議していければと。

岡村会長)

今の話に関連して、まちなかで見ると、1時間で行って戻るというような、1日に3時間帯行っているという、3つのパターンがあるというのをご理解していただいて利用させていただくというのが。

夕方の買い物っていうのがよくわからないのですが、いろんな地域でみると、意外と高齢者の利用っていうのは午前中が多いっていうようなデータもあって、病院も買い物もどいう利用がされているのか、地域性がありますが。

幸い、免許返納されている方は、どの方が返納されているのかって町もチケットを渡されている以上わかっていると思うので、全員って言ってもたかが知れているので、アンケートっていうと仰々しいですけど、聞き取りというか、してもらっているとは思いますが。

今、利用されている人もそうですし、閉じこもりがちになっているとか、返納されてからは警察ではなく、町が維持していかなければいけないですし、また、免許返納により閉じこもってしまうということもある。

事務局：尾森)

自主返納の方にアンケートを、聞き取りまして、ここで状況を報告させていただきます。

岡村会長)

やりましようとか、やんなきゃいけないというよりは、状況の把握に努めておくという。

事務局：尾森)

次回までに、免許証返納の方にアンケート調査をして、報告をさせていただくということで。

岡村会長)

ほかはいかがでしょう。ちなみにすいません、(1)の利用促進というところで、会議の予算ではなく、免許証返納は会議の事業としてではなくということですか。

事務局：尾森)

はい

岡村会長)

この件、ご承認の手続きに入ってよろしいでしょうか、他にありますでしょうか。

岩崎委員)

今、コミュニティバスのお話がありましたが、その件で、少しずつ利用実績も増えているところですが。先ほど時間についてのご意見がありましたが。会社としましては、会議で決まったものについては、そのとおりに運行をいたします。しかし、バスが1台しかないので、半島への路線の調整をしなければならないと。

岡村会長)

他はいかがでしょう、そうしますと、まとめてご承認をいただくということでよろしいでしょうか。

—異議なしの声—

(6) バス停留所位置の変更について

○資料6を用い、事務局より説明。

事務局：尾森)

資料6をご覧ください。今年度より新設いたしましたバス停「滝ノ入」につきまして、近隣住民からプライバシーの問題を理由に移設の申し出がございましたので、資料の赤の位置から黄色の位置へ移設したいと考えております。なお、移設先の住民の方からは移設について快諾を得ております旨報告いたしますので、ご審議のほどよろしくお願いいたします。

岡村会長)

交通管理者からも問題ないとして、調整がついているという事でよろしいでしょうか。

事務局：尾森)

この審議を経まして、よろしければ、移設を考えていきたい。

中村委員)

場所はどこですか。

事務局：羽立)

すこや家の手前、滝ノ入り分譲地です。

佐藤委員)

先ほど、民家の方に承諾を得たと、敷地内という事ですか、写真では、横に移動して歩道上に置かれるのですか。

事務局：尾森)

歩道です、次のページに位置図があります。

岩崎委員)

占用、切り下げですかね。

加倉井委員)

そうですね、占用か切り下げかですね。

佐藤委員)

切り下げなら、県道という事であれば調整が必要かと。

事務局：尾森)

調整いたします。

岡村委員)

これで決まりではなく、県道ですので、これから調整に入るという事でよろしいですか。

—異議なしの声—

(7) 交通弱者に対する交通手段の検討について

○資料7を用い、事務局より説明。

事務局：尾森)

『交通弱者に対する交通手段の検討について』でございます。資料7をご覧ください。高齢者や障害者、児童など交通弱者の交通手段が失われないよう、真鶴町では、狭い路地も通行が可能な、10人乗りコミュニティバスと、昨年度実証実験を行ったデマンドタクシーの導入についての検討をしております。

車両につきましては、平成 28 年度に運行していたワゴン型 10 人乗りに加え、写真にはございますが、低速電動コミュニティビークル、グリーンスローモビリティの検討もしているところでございます。

グリーンスローモビリティとは、2 で説明させていただいております。電動で、時速 20km 未満で公道を走る 4 人乗り以上の乗り物です。環境面への配慮や、低速であることから観光としてのモビリティとして。また、狭い道も通れることから交通弱者に対する新たなモビリティとしても注目されております。

交通弱者に対する交通手段の確保は急務と考えておりますが、新しい交通手段の導入については、既存の公共交通ではカバーしきれない箇所について導入するべきであり、運行範囲等の重複は避けたいところでございます。様々な状況を考慮し、利用者、事業者の声を踏まえ考えていきたいと思っております。

引き続き、デマンドタクシーについてですが、1 月半で 6 回と報告させていただきましたが、事務局といたしましては、乗降ポイントと金額の設定、400 円が利用率の伸び悩みにつながったのではないかと考えております。事務局からは以上です。ご審議のほどよろしくお願ひします。

岡村会長)

こちらは、来年度これをやりますということではなくて、こういうものがあるので、やるとしたら次の次の年度、中期と言っているのかはわかりませんが、色々検討をした中でデマンドタクシーという形にしたのですが、思いのほかご利用がなかったというか。

事務局：尾森)

提案ということでさせていただきます。

青木委員)

よろしいですか、新たにワゴンタイプとデマンドかどちらかという話でいいのか、目的を。今のコミュニティバスをやったことによって、欠落した場所の利用のためにデマンドを行った、それがあまり活用されなかったというのは別として。それとは別に、前と同じようなバスをデマンドと同じように欠落したコミュニティバスがはいっていない場所について導入しようという話、でいいのですか。

事務局：尾森)

提案としてはそうです。

青木委員)

じゃあ、それに関して言わせてもらいたいのは、私の立場上社協の仕事をしている関係から、受益と負担という。今回の町の負担は 100 万位、収入を充てたうえで、1,400 万、1,300

万だとしても、税金を投入しているということで。

それでまたここで資金を、税金を投入したからといって、仮に 100%の稼働率があったとしても、相当の負担増になるのではないか。仮に、ここにでている 300 万円の車両を購入して、100 万円の収入があったとしても、200 万円負担がある、その 200 万円が町民の私たちにはいってくると。そういうのを考えると、受益と負担を考えると、そんなに簡単にね、せつかくこの事業を、町の負担を少なくして効率よく、町の公共交通をやろうじゃないかという本質論に抵触するような、そういう疑問はあるんですけどね。

岡村会長)

ほかはいかがでしょう。

事務局：尾森)

当然タダではできませんので、導入にあたりましては、公共交通会議もありますが、議会を経まして導入ということになります。すぐに始めるというわけではなくて、必要か不必要かなどを図っていくというか、税金を投入するという事を念頭に考えていきたい。

中村委員)

よろしいでしょうか、これってあったらいいのか、なかったらいいのかといたら、私はあったらいいと思います。

あんまり、わかっていないのかなっていう。見て関心持って、聞いてみると、それ何っていうことがあるので。

例えば返納のことでいえば、ご夫婦で駅に歩いていくので、返納のことを教えてあげました。その後ご夫婦が免許返納されたかはわかりませんが、こういう事業をやっているというのを皆が知らない。こういうところにも問題があるのではないかと思います。

岡村会長)

いかがでしょう。ちなみに、先ほどでてきましたが町負担 1,300 万というのは、今までよりは低くなったという事で、これをどう考えるかということですけど、これ 1 人あたり 200 円でこれはすごく単純な計算ですけど、お一人の乗客に結果として 300 円強から 400 円弱位補助しているという形で、1 人あたりだいたい 500 何円かかかっていて、お客さん 200 円払っているという。

受益と負担という事で、これをどう考えるかというところですけど。例えば、タクシー乗ったら今 700 数十円ですので、タクシー券を配ってということよりは、安くなっていると、一人あたり 500 円というのはそんなに悪い数字ではないのですが。

一方、中期的にやっていきましょうという乗り物は 500 円じゃ全然済まなくて、桁が 1 つ違ってきます、1 人あたりということになると。

真鶴町は、日中はたぶんタクシーを電話で呼んだらすぐ来ていただける地域で、距離には

よりますけど、1,000円前後くらいで概ね駅、または町の中まで行けるとすると、あえてタクシーを使わずに何か使い勝手のいいものっていうんだとすると、これかなり工夫があるのかなと感じがします。

2月に行ったデマンドタクシーも400円がタクシーより安いというのは違うのですが、電話するわけですね。

事務局：羽立)

はい

岡村会長)

だったらタクシー会社に電話をしたらすぐとは言わないけど、好きな場所に好きな時間にいけるわけで迎車をいれると1,000円ちょっとになるでしょうけど、本当に移動したい人はタクシーを使うでしょうし、現状でもそうなのだろうと。

使い勝手はタクシーより悪いけど、ちょっとだけ安くて、っていうのは、それはここに書かれていますけどタクシーとバスの良いところを組み合わせたのかっていいますと、バスより補助金かかるし、タクシーより使い勝手悪いしってことで、もしかしたら悪いとこどりかもしれないですね。

なので、最初私が調査したらいかがですかっていったのは、生活実態と合っているのか、逆に生活実態にこの乗り物に合わせて頂くとか、そうしたなかで外に出て頂くのが大事なので、たぶんそういう取り組みの中で、2,000万円出しても、こういう楽しそうな車があった方がいいのでしたらやればいいですし、タクシー積極活用ということでそれをしっかり周知しますということでしたら、タクシーは皆さん見えていますから。

やはり、一番身近なのはバス、タクシーだと思いますのでそういうやり方もあるので、目的が同じか違うかということも考えて。

もし、やるのでしたら目的が違うのかなと感じがします。病院に行きたいというよりは、出かけて人と会ったりする、高齢者には3日位人と会わないとかあると聞きますので、高齢者の方が出かける外出促進的な観点。これはぜひ、健康福祉課長もいらっしゃるので考えて頂ければと。

藪田委員)

今までずっと黙っていたのだけれど、前にも言ったかもしれないのだけれど。今400円？それって何人乗っても400円じゃない、そうじゃなくて、皆が集まるとこ、今真鶴にはいっぱい空き家とかがある。そういうところに何箇所か集まって、そこにいけばお茶が飲めるよとか起点になって、例えばだけれど、今だとワンメーター700円だけれど、200円以下になるよね。4人居れば、そういうのも真鶴では合うと思う。現に福島県では、商工会の視察で行ったことあるのだけれど、成功しているところもある。理想なのだけれど、4人集まったら買い物に行こうとか、提供してくれる家もたぶんあると思うのですよね。現に成功しているところも

あるから。

中村委員)

今のお話で、サロンというお話が。町に4箇所ありますが。友達同士で行くときは相乗りでいくことがあるのですが、何か会合するってことがありますと、私の場合は町民センターで娯楽室までは来ないのですよね。そういう時にそういう考え方も1つかなと考えるのですが、私も家の近辺の喫茶店では30人くらい集まることもあるのですが、老人クラブでの娯楽室には来ないっていう。

足ってというのは難しい問題ですよ、サロンってというのは今マージャンもとりいれていますので男の方もね。歩いてくる方も、相乗りするかたも、空き家っていう問題もあって、そういう対策に魅力的なものがあればそれはいいと思いますけど。

出る人ってというのは大体決まってしまうのですよね、だからお年寄りの方を引き出すってというのは相当難しい。一度嫌っていったら全然でてこないっていう現実もあります。

藪田委員)

話が少しそれてしまったようで。

岡村会長)

福島ってというのはそういう小さい取り組みがたくさんあるのですよね。そしてかなり、福島県はそれを外へ発信しているということですね、私も確かに聞いたことがあります。

なので、そうやって地域の車に乗る場合もありますし、タクシー事業者さんをお願いする場合もありますし、1日3本のバスって言いますと、少し寂しい気がするのですが、そういうのって週に数回だったりするのですよね。でも、それに合わせて行動していただければいいという考え方もありますし、安ければいいっていう問題ではないですけど、それを支えるボランティアの方も大変ですし、1日3便っていうよりも週に1回、なんとか地域の人の方力も借りながらだけ運転手さんはきちんとタクシー会社さんに。

たぶん、移動しなきゃいけない人はここだとタクシー呼ぶだろうと、福島あたりだとタクシー呼んでも病院行くのに3,000円とかだと、もうもうって話なので、病院行くときもそういう車だと思うんですけど。

乗って楽しいとか、行って楽しいとかじゃないと外にはでてくれないのでこれは年齢に関わらずだと思うので。

事務局：尾森)

ちょっとソフト的な感じと言いますか。資料7は毎日運行するというイメージですけど、今はコミュニティありきでその関する交通を提供するという考えですよ。

岡村会長)

ちょうど1月くらい前、横浜の菊名っていう。駅としてはものすごくお客さん多くて。駅前は何のすごく狭い山の中の細い道を登っていくところで。

駅まで歩いたら10分20分くらいのエリアに火曜日だけ1時間おき1日7便という地域の方が車を動かすというのをやっていて、これはタクシー業者さんではないので、お金は取れないので、ただ運輸局には法律に抵触しないというようにかなりきちんとしているというのは聞いているのですが。

そうするとそれにあわせてお買い物ですとか、お食事会とかですとか、会員さんが50名ほどで大したことはないのですが、その毎週40人くらいの利用があるということです。

行って帰ってなので、50人の会員が2週に1回は使っているということで私も後ろの小さい席に乗せてもらいました。

地域の方が運転手で、添乗員さんもいて、お話をしたり、乗り降りの時はちゃんと見守って。場合によっては荷物がある場合には、ちょっと玄関先位なら大丈夫なので持って行ってあげてなんていうことがあると、我々もタクシーの運転手さんと話をさせていただくことがあります、それよりはもっと個人的な本当におしゃべりというような感じで。

それでも週に1回というのも大変だって聞きましたけど。朝から車を点検してちゃんとやりますので、週に2回はとてもできませんということですが、もうだいぶ続いているようです。

でも、これはすごくパワーがいる話なので、別にこれで車の運行をタクシー会社さんに運行をお願いするというようになったところでたぶん地域の方の負担は減るという事で、でも費用はその分かかるという。話し出すときりがないというところで。

こちらでも検討していただくという、乗り物の検討っていうことになるとういう議論になってしまうのですが、どんな移動とか、どんな生活をしていただくかというのが大事かといとところに焦点をあてていただくと、タクシー事業者さんの力を借りるとか、バスをうまく使うとか、地域で何かがんばってもらうとか、たぶんそれは次の話で。最初にやり方をきめてしまとなかなかしんどいです。率直に言うと。

乗り物が家の前に来るとでかけるかっていうと、そう話は簡単じゃないし。目の前にバス停があれば出かけるかっていうと出かけない方は出かけないし、乗らない方は乗らないし。ただ、車を用意するだけではっていうことですよ。

あくまで個人的にですが、デマンドタクシーは湯河原町の地域の方が熱心で、っていうこともあり、一定数のご利用もあって、一定数の効果がでているということもあるんですが、なかなかそうじゃないところがたくさんあって。

事務局：尾森)

狭い町なので、お隣町に行きたいので、っていうのもあるみたいで、真鶴だけしか動かないのかという話もあります。この件は中期的にといいますか、どんどんこちらは重要になってくると思いますので引き続きといいますか、力をいれて検討していくというところですね。

岩崎委員)

今、提案いただいたグリーンスローモビリティ車3台でているのですが、当社も国の環境省で補助金を出してしましてそれに参画させていただいてですね、16人乗りっていうのを今年度中に沼津市で運行させていただく予定です。

実際まだ発注もしていない状態なので今の段階でどんな車かっていうのは皆さんの前ではご説明できないのですが、次の会議が半年後ということで、その時に運行が始まっていたら使い勝手ですとか、そこにいくまでに乗り越えなきゃいけないハードルっていうのが意外にたくさんあるので、道路管理者さんとの調整ですとか、16人乗りっていうのはバスですので、運行するには車庫で点検しなきゃいけないのですが、車庫まで行って戻って運行するっていうのが20キロなのでとても難しい。

そういった問題を1つずつクリアして運行していくという、今私はちょうどそういう業務をしていますので、そのときにご説明させていただければと思います。

岡村会長)

これはどうも国も複数の補助金の制度が合って、いろんなところで導入したり、補助金とは別に、別な枠組みで、ゴルフカート型だと安いので、急にいろんな例がでてきているところですので、次の会議、次の次の会議では、事例もたくさんでてきていると思いますので。うまくいっているのだとしたら、さっと飛びついてもいいのかなと、そこは、ご紹介ありがとうございます。

3 その他

事務局：尾森)

次回の開催ですが年明けに開催予定でございます。通知につきましては追って出していきたいと思っております。よろしくお願いいたします。

岡村会長)

委員の皆様からなにかご意見等ございますか。それでは、司会を事務局へお返しします。

4 閉会

事務局：長沼)

本日はどうもありがとうございました。それでは、これで真鶴町地域公共交通会議を閉会いたします。また、よろしくお願いいたします。